胆振総合振興局森林室
普及課・豊浦事務所情報誌
じゅ　りん

～樹　林～

第44号　令和7（2025）年 6月27日
発　行　胆振総合振興局森林室

【普及課】
苫小牧市矢代町3丁目1-18
TEL：0144－72－5123
FAX：0144－74－0754

【豊浦事務所】
豊浦町字船見町10　豊浦町役場内
TEL：0142－83－2481
FAX：0142－83－3521

今年も各地で植樹活動が行われました

道では、道民の皆様が森林づくりに積極的に取り組むことは、木育の推進はもとよりゼロカーボン北海道の実現にもつながることから、平成30年に**「北海道植樹の日・育樹の日」**を定め、道民の皆様とともに全道で500万本の植樹・育樹を目指す「道民ひとり1本植樹・育樹運動」を展開し、植樹・育樹活動の定着を目指しています。

胆振地域では、30年以上実施している漁協婦人部の「お魚増やす植樹活動」をはじめ、様々な団体が今年も植樹活動を行っています。

植樹・育樹活動に積極的に参加していただくなど、森林づくりへのご理解とご協力をお願いします。

5/14　室蘭漁協植樹活動(室蘭市)

5/24　いぶり中央漁協植樹活動(登別市)

5/31　洞爺湖町町民植樹祭(洞爺湖町)

5/26　かおり幼稚園（苫小牧市）植樹活動

6/5　いぶり噴火湾漁協植樹祭(豊浦町)

6/17　登別カトリック聖心幼稚園（登別市）植樹活動

6/24　豊浦町放課後こども教室(豊浦町）植樹活動

胆振地区指導林家連絡協議会 会員も植樹祭で活躍しています

胆振地区指導林家連絡協議会の池田指導林家、桔梗原指導林家の2名は5月24日(土）いぶり噴火湾漁協植樹祭で参加者への植樹活動の指導支援を行いました。

支柱への結び方サポートを行う桔梗原指導林家

胆振東部地震　森林復興・復旧　お便り

胆振東部地震からの森林再生

　平成３０年９月に最大震度７の北海道胆振東部地震が発生し、大規模な土砂災害や家屋の倒壊、道路の陥没など甚大な被害をもたらしました。
　森林では、厚真町を中心に、国内の地震による被害としては明治以降最大規模となる約４千３百ヘクタールに及ぶ山地崩壊、林道等の損壊や木材加工施設の損傷などをもたらしました。
　こうした林業被害を早急に復旧するため被災３町（安平町、厚真町、むかわ町）、林業事業体、試験研究機関、国、道などを構成員とする「胆振東部森林再生・林業復興連絡会議」が平成３０年１０月に設置され、森林の再生に向けた取組が進められています。
　森林再生の取組は、北海道庁のホームページで、詳しい資料が公開されています。

URL:https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/hukkourenrakukaigi.html
QRコードからアクセスできます

崩壊地を森林に戻すために

森林所有者の意向確認

　被災３町、苫小牧広域森林組合、胆振総合振興局では、被災した森林を所有する方を訪問し、アンケート等により、倒れた木の整理や植栽等の希望を聞きとって森林再生に取り組んでいます。
　聞きとりの際には、森林再生の意義をご理解いただき、必要な事業には費用に対し高率な補助が利用可能であることを十分説明し、着実な復旧につなげています。

植栽による復旧

　傾斜が緩く、土壌条件の良い土地には、倒れていた樹木を除去した後に、胆振東部地域で多く植栽され、栄養が乏しい土壌に強いカラマツが、主として植えられています。
　全体目標としては１，１１６ｈａの植栽が計画され、令和６年までに４２１ｈａが植えられており、計画を上回るペースで進められています。

自然の力で回復

　傾斜が急であったり、土壌が堅いなど条件の悪い土地は植栽に適さないことから、自然の力を利用して回復することを目指しています。崩壊地の一部では、カラマツ等の旺盛な発生が確認されています。
　また、回復が見られない崩壊地では、原因を調査し、今後の対策が検討されています。

林道等の復旧

既設の林道の崩壊により、震災直後は被害状況の把握も困難なほどでしたが、迅速に補修工事が進められ、令和３年度末までに主要な林道の復旧が終了しています。

また、森林の復旧には路網整備が必要であることから、新たに１００㎞の作業道等の開設を目標に、現在、集中的・計画的に進められており、当初の計画を上回るペースで整備されています。

幌内高丘線
被災時

復旧後

山地災害の防止

震災以降治山事業は、住宅などに近い崩壊地で迅速に進められ、令和２年度末までに主要な工事は完了しています。治山事業では山腹崩壊を防ぎ安定させるための工事や、土石の流出を押さえるダム工事、草本の種を蒔いて緑化する工事などが行われています。

しかし、火山灰を基盤とする地盤は脆弱なことから、未だに土石等の崩壊や流出が見られるため、継続して事業が実施されています。

復旧前

復旧後

森林再生のよもやま話

脆弱な地盤に対応する林業専用道

倒れた木の整理や植栽のためには自動車道の整備が必要であり「林業専用道」や「森林作業道」が作設されています。

脆弱な地盤でも、低コストで、かつ、壊れず安定した走行ができるようにするため、例えば、道路を横切る小川では、石を詰めたふとんかごやコンクリート等で固めた河床路を設置するなど、様々な工夫がされています。

エゾシカによる食害

カラマツなどの植栽後、近年増え続けているエゾシカによる食害の被害が確認されています。

カラマツは葉の食害に強い樹木であり、エゾシカに食べられても枯れることは比較的少なく、成長は遅くなりますが、確実な成林が見込まれます。

天然更新の現状把握

被災した森林は、面積が広大であり、また山奥かつ急傾斜地にあることから、自然に発生した樹木の生育状況を、人手で全て把握することは極めて困難です。

このため、復興連絡会議で対策が協議され、人工衛星等から撮影した画像を解析することにより、現在の草木の発生状況を把握する取組が進められています。

林業技術情報

ドクガにご注意を！

今年は山で造林地やその周辺のイタドリなどの草類に毛虫を多く見かけます。住宅近くの草地などでも集団で発生していることもあり、家庭菜園や草刈りなどの作業中に誤って触れてしまうと大変危険です。生態や防除方法などをご紹介します。

ドクガとは？

ドクガはチョウやガの仲間で、ドクガ科ドクガ目の昆虫です。

日本では北海道南西部から九州まで分布しています。時より大発生することがあり、どうやら今年は大発生の年に当たったようです。

幼虫は毒毛（毒針毛(どくしんもう)）を持っており、触ると皮膚炎を起こすため注意が必要です。黒褐色でオレンジ色の縞や斑紋があります。成虫になるまでに１０回以上脱皮するようで、脱皮のたびに、大きくなり色も黒色の部分が多くなっていきます。小さい時は集団で生活し、大きくなると単独で行動するようになります。当初はバラ科の植物などを食害しますが、大きくなるにつれて針葉樹や広葉樹など何でも食べてしまいます。葉っぱのほか、新芽や青枝なども食害します。

７月中頃に羽化して**成虫**になります。成虫は口が退化しており食害はありませんが、見た目が気持ち悪いです。

その後、交尾・産卵し、秋には幼虫が孵化、地面に近い葉っぱを食害します。秋遅くに落ち葉の下などに群集して越冬します。

ドクガの幼虫

防除方法等

幼虫は毒毛を持っているため、衛生害虫として注意が必要です。

毒毛は直接触らなくても、近くに寄っただけで皮膚に炎症を起こす場合があるので、近寄らないのが一番です。

通常、山林等では大量発生して葉っぱなどを食害されても木を枯らすことはほとんどないので防除は必要としませんが、住宅近くなどでやむを得ず防除する場合は次のとおり対処してください。

・庭木などの樹木には、樹木類のケムシ類に適用できる農薬が各種市販されているので、散布して駆除してください。
・家庭菜園等で殺虫剤を使用する場合は、適用表で当該植物に適用できるか十分確認してください。
・農薬等は用法用量を守って適切に使用してください。
・作業にあたっては、肌を露出しないよう長袖・長ズボンを着用し、ゴム手袋をしてください。

出典：道立衛生研究所
道総研 林業試験場

◎毒毛が付いた時は、テープなどで取り除き、流水で洗い流してください。
症状に応じて、皮膚科を受診しましょう。